

高まる4年制志向

苦悩する短大

募集停止の余波

○上

奈良佐保短期大学（奈良市鹿野園町）が昨年末、全学科で2025年度以降の学生募集を停止すると発表した。2年後の春、開学から90年余りの歴史に幕を下ろす。同短大の募集停止は、在校生や県内の教育関係者、地域住民らに大きな波紋を投げかけた。少子化や4年制大学志向の高まりを受け、大幅な定員割れが続いていたという。同短大は「苦渋の決断だった」と説明する。募集停止の背景を探った。

（谷村 隆城）

▽ピーク時から半減 だ。帝塚山短大や奈良文化全国短大数は1996年女子短大、桜井女子短大などの598校をピークに減り続け、23年度に309校と半減した。現在では奈良佐保短大、県内でもその傾向は顕著

奈良芸術短大、名称を変更



学生の募集停止を発表した奈良佐保短期大学。奈良市鹿野園町

した大和大学白鳳短期大学の3校のみとなつてい

る。背景には、国が20年4月に新しく導入した高等教育の修学支援制度がある。家庭の経済状況に関わらず大

佐保短大閉校へ 国の支援制度など背景

学や短大、専門学校などへの進学を可能とする制度で、住民税非課税世帯やそれに準じる世帯が対象となる。

▽続く定員割れ 県内にある三つの短期大と、同短大は2001年に

募集停止が決まったのは昨年12月23日の理事会。池内ますみ学長は「苦渋の決断だった」と振り返る。「在校生や新入生に迷惑はかけられない。経済的に余力のあるうちに手を打った」。

募集停止後も学生の教育や進路支援などにはこれまで通り対応、卒業後の各種証明書発行などについても支障のない体制を整えるという。

支援の条件として「学費意欲」を重視、授業料や入学金のサポートが受けられるほか、返済の必要がない給付型の奨学金が支給されるなどする。

進学率が50%前後の県立高校で長年進路指導を担当する男性

学のうち、最も歴史の長い奈良佐保短大は、1931（昭和6）年に奈良女子高等師範学校（現奈良女子大学）の同窓会「佐保会」が開設した「佐保女学院」が前身。65（同40）年に現在地に移転し、佐保女学院短大となった。

男女共学に再編、他に先駆けて幼稚園教諭と保育士資格のダブル免許取得が可能など、一時は志願者数がV字回復を見せた。

しかし、他の短大や4年制大学でも幼稚園教諭や保育士資格が取得できるようになると、再び定員割れが続くようになった。その苦境に新型コロナウイルス禍が拍車をかけた。同短大は介護士を目指す外国人留学生などを受け入れてきた。24年度の指定校推薦受験の志願者数も23年度と同様に低調で、回復傾向は見えない。志願者数の減少で同短大は赤字経営が続ぎ、三つの付属幼稚園から収益を補填（ほてん）する形で存続してきた。

多様化するニーズにこたえ、最適な建物管理を提案します

アスカ美装

〒747-0291 奈良市大宮町2-1-1
TEL: 0742-24-1157 FAX: 0742-24-1158

<http://www.asukabiso.co.jp/>